



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会 議：国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）第 43 回総会

開催場所：International Maritime University of Panama、パナマシティ（パナマ）

会議期間：2024 年 9 月 23 日～27 日

参加者：9カ国 2機関から約 60 人

海技研からの出席者：宮崎 恵子 国際連携センター長

高橋 千織 GHG 削減 PT リーダー、日本船舶技術研究協会審議役

概要：

- ISO/TC 8（以下、TC 8 と略す）総会は、TC 8 加盟国、傘下の分科委員会（SC）議長と幹事、作業委員会（WG）コンビーナ等が参加し、TC 8 議長と幹事により開催され、TC 8 の標準化方針の審議及び各 SC と各 WG 等の 1 年間の活動報告がなされるものである。
- 前回の TC 8 総会にて、海事における温室効果ガス削減分科委員会（SC 25）と、TC 8 直下の WG 10 を移行したスマート SHIPPING 分科委員会（SC 26）が設置され、活動が開始しており、それぞれの議長が活動概要を報告した。



TC 8 総会の会議の様子

主な貢献

宮崎は、海上安全分科委員会（SC 1）議長として SC 1 の活動報告を行った。

高橋は、2024 年 1 月から海洋環境保護分科委員会（SC 2）議長に就任し、SC 2 の活動報告を行った。

さらに、高橋と宮崎はそれぞれ ISO 代表団として参加した国際海事機関（IMO）の第 11 回汚染防止及び対応小委員会（PPR 11）と第 10 回船舶設備小委員会（SSE 10）の報告を行った。本会合に先立ち、宮崎は SC 1 幹事（米国コーストガード）と協力し、TC 8 から IMO への出席者や提案文書等を適切に管理するための内部用ガイダンス案を作成した。当該ガイダンスは、TC 8 で使用される予定である。



主な審議結果

初日に TC 8 議長及び幹事並びに各 SC の議長及び幹事による Managing meeting が、二日目と三日目及び最終日に TC 8 総会が開催された。また、四日目に Industry visit でパナマ運河ミラフローレス閘門を見学した。なお、審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

1 TC 8 の主な話題

組織としての大きな変更は、前回の TC 8 総会にて、TC 8 に、海事における温室効果ガス削減分科委員会 (SC 25) 及びスマート SHIPPING 分科委員会 (SC 26) が新設されて、それぞれ活動が開始されていることである。前者は、TC 8 の複数の SC で審議されていた GHG 削減に関連した規格について、総合的に取り組むために新設されたものである。また、後者は、自動運航船等に関して TC 8 直下のスマート SHIPPING 作業委員会 (WG 10) で審議してきたが、格上げされたものである。

また、内陸航行船分科委員会 (SC 7) 並びにインタモーダル及び短距離海上輸送分科委員会 (SC 11) の議長は 2024 年末で交代する予定である。一方、TC 8 議長は 2024 年末に任期終了であったが、技術管理評議会 (TMB; Technical Management Board) により 2026 年末までの延長が承認されている。

規格検討の方向性としては、TC 8 議長から、代替燃料に対応した船員訓練、風力補助推進や空気潤滑等の推進性能向上技術及び二酸化炭素回収・貯留に関連する技術について検討していきたい旨が述べられた。

2 各 SC の 1 年間の活動報告

各 SC 議長並びに TC 8 直下の各 WG 議長等により、1 年間の活動報告がなされた。宮崎は SC 1 議長として、SC 1 は、救命 (WG 1)、安全器具 (WG 2)、防火 (WG 3) の 3 つの作業委員会 (WG) から成り、来年 WG 1 幹事がコンビーナに就任する予定であること、WG 2 コンビーナが新たに選任され既に活動していることを報告した。また、今年の SC 1 総会をフォートローダーデール (米国) で開催した状況や今後の予定、規格の改訂に関する IMO への提案文書提出、また、IMO への出席及び提案文書等の適切な管理に関する内部用ガイダンス案の策定についても報告した。

高橋は SC 2 議長として、SC 2 の活動と IMO における環境保護関連の条約等との関係を説明し、現在、IMO MARPOL 附属書 I、V、VI、AFS 条約及び船体付着生物管理ガイドラインに対応した規格の作成中であることを報告した。また、SC 2 傘下には 8 つの WG を設置しており、そのうちエネルギー効率データ収集作業委員会 (WG 11) を再設置した他、船舶環境データ品質管理作業委員会 (WG 14) を新設したことを紹介した。前回 TC 8 総会開催以降、2023 年 11 月にスウェーデンのストックホルム、2024 年 6 月に東京で SC 2 総会を開催したことをはじめ、活発な各 WG の活動、規格の策定状況を報告した。



3 IMO等の活動報告

ISOはIMOの協議資格を有する国際非政府組織であり、TC8ではIMOの動向把握と、それに基づく連携した活動が重要と考えられている。高橋と宮崎はそれぞれISO代表団としてPPR11(2024年2月)とSSE10(2024年3月)に参加したので、その報告を行った。

高橋は、PPR11に参加したISO代表団のメンバーを紹介するとともに、SC2の活動に関連する議題として、船舶からの廃棄物、エンジン排ガス、水中洗浄に関する審議結果を中心に報告を行った。特に水中洗浄ガイドラインについては、SC2からPPR11/INF.8“Development of ISO standards on in-water cleaning of ships' biofouling”の文書を提出し、WG13のコンビーナ、プロジェクトリーダーらがIMOでの議論に参加したことを報告した。

宮崎は、SSE10に参加したISO代表団のメンバーと主な議題の審議状況を報告した。「救命艇等の保守・詳細検査・動作試験等に関する要件(決議MSC.402(96)の改正)」の審議では、決議MSC.402(96)の統一的な実施に必要な論点の整理が終了しなかったため、通信グループ(CG; Correspondence Group)を設置して、現在、審議を続けており、前述の内部ガイドライン案に沿って対応していることを報告した。ISO23678:2022シリーズは、決議MSC.402(96)に参照されることを目的に策定、発行しているが、まだ実現していないため、引き続きISOとして対応する。

4 次回の会議予定

TC8総会はアジア、欧州、北米、南米といった各地域で均等に開催する方針となっており、来年はアジアが開催地域となっている。現時点では、トルコのイスタンブールが有力候補となっているが、未定である。

以上